

「花かご」人形劇・東北ボランティア

・第5次 2014年9月28日～30日

・メンバー 熊倉、真知、木村、菅野
武本夫妻

東日本大震災が起きてから3年半。
大防潮堤やかさ上げの工事で、南三陸町
は海の見えない町に変貌し、被災した住
民は相変わらず仮設住宅で暮らしていた。
先の見えない復興に胸が痛くなった。
複雑な問題もあるのだろうが、まず住民
の暮らしが最優先のはずなのに…。



防災対策庁舎



10メートルのかさ上げ工事。震災前は人口の7割が住む町並みだった

津波がギリギリまで来た保育所



ほったて小屋から始めた大森食堂
マスターは元遠洋漁業の漁師

毎年楽しみにしてくれている志津川保育所の子どもたち



音楽がいっぱい。海岸の食堂

3.11以来、今年で5回目の南三陸町訪問。最初の年の5月はまだ瓦礫の中での公演だった。その中で精一杯生きる人々の姿に圧倒された。3年半が過ぎ、現実には深刻だが、陽気にたくましく生きる東北の人たちに出会うと、不思議な気持ちになる。我が人生に深く影響しているような気がしてならない。子供たちや保育士さん、漁師さん、議員さん、大森食堂に会いに又来ようと思う。 熊倉記